

# 滝を巡るひとり旅

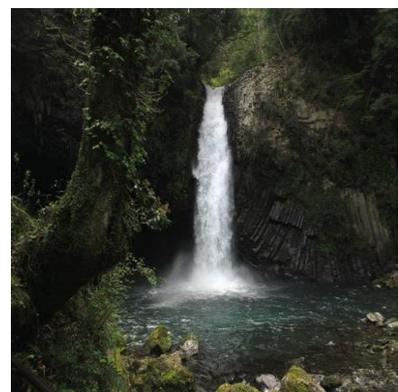
村松 洋一

平成30年9月から脊柱管狭窄症手術後に続く感染症のため4か月弱入院し、退院後すかさずインフルエンザにかかり解放されたのは昨年（令和元年）の2月中旬でした。事後、リハビリを兼ねスポーツジムで水中歩行などを再開するとともに、11月から好きな趣味（ドライブによるひとり旅）も開始しました。

令和元年12月から本格的なドライブとして静岡県富士山麓「白糸の滝」（\*写真①）・伊豆半島「浄蓮の滝」（\*写真②）（いずれも日本の滝百選）巡りから始めました。伊豆半島周遊は以前からドライブコースとして決めています。



① 白糸の滝（静岡県）



② 浄蓮の滝（静岡県）

令和2年1月には初詣を兼ねて埼玉県三峯神社、大寒日（1月11日）には氷瀑していない茨城県「袋田の滝」（\*写真③）（日本の滝百選）〈令和3年1月氷瀑した袋田の滝（\*写真④）：参考〉とあんこう鍋を食べに北茨城市「五浦海岸」へ。



③ 袋田の滝（茨城県）



④ 氷瀑した袋田の滝（令和3年1月）

2月には静岡県大井川鉄道の終点「井川」(\*写真⑤・⑥)へ。



⑤ 大井川鉄道 奥大井湖上駅(無人駅)付近

⑥ 南アルプス山系 赤石岳を望む

3月には孫娘と一緒に地元横浜の「三溪園」の桜、横須賀市「ソレイユの丘」の富士山とコラボした菜の花畑を。この頃からコロナ対応のため各地で感染対策が始まりました。

4月初旬には再度伊豆半島「浄蓮の滝」へ。驚きました。今まで中国人観光客などでごった返していた滝周辺は寂しいくらい閑散としていて土産店は嘆いていました。途中、昼食時に立ち寄った格式のある大きな食堂には客は私一人だけ。何かまずいことをしてしまったのかと思ったほどでした。

4月～5月はスポーツジムが自主的に「営業停止」のため私自身もステイホーム(植木の手入りに専念)。

これ以降ドライブは弁当持参でひとり旅の滝巡り。目的地は人がいない(少ない)山奥の滝。「3密」は起こりにくい。

6月には神奈川県南足柄市「夕日の滝」・天狗伝説の「大雄山最乗寺」へ。7月にも神奈川県山北町「洒水(しゃすい)の滝」(日本の滝百選)(\*写真⑦)へ。

8月には、静岡県裾野市「五龍の滝」(\*写真⑧)へ。市営の公園内に迫力のある滝と吊り橋(\*写真⑨)があるのには驚きでした。



⑦ 洒水の滝(神奈川県)

⑧ 五龍の滝(吊り橋の中央から撮影)(静岡県)

⑨ 吊り橋

更に、栃木県日光市「華厳の滝」(日本の滝百選)(\*写真⑩)・「涅槃(ねはん)滝」・「竜頭の滝」・「湯滝」(\*写真⑪)・「霧降ノ滝」(日本の滝百選)(\*写真⑫)へ。



⑩ 華巖の滝 (栃木県)



⑪ 湯滝 (栃木県)



⑫ 霧降ノ滝 (栃木県)

9月には、千葉県富津市「地蔵堂の滝」・南房総市「黒滝」(\*写真⑬)・鴨川市「四方木不動滝」・大喜多町「栗又ノ滝」(\*写真⑭)へ。更に埼玉県「秩父華巖の滝」(\*写真⑮)・「寶登山神社」・「ダリア園」へ。



⑬ 黒滝 (千葉県)



⑭ 栗又ノ滝 (千葉県)



⑮ 秩父華巖の滝 (埼玉県)

10月には、東京都檜原村「払沢(ほっさわ)の滝」(日本の滝百選)(\*写真⑯)へ。東京都に日本の滝百選が存在していることを初めて知りました。これまでは全て日帰りのドライブ。

更に、10月の群馬県について日帰りは難しく草津温泉に宿泊し浅間山周辺と水上周辺に分けて滝巡り。浅間山系では「白糸の滝」(\*写真⑰)・「浅間大滝」、水上周辺では「吹割の滝」(日本の滝百選)(\*写真⑱)へ。



⑩ 払沢の滝（東京都）



⑪ 白糸の滝（群馬県）



⑫ 吹割の滝（群馬県）

このように関東1都6県・静岡県の滝を同じ目線で巡って感じたことは、事前に入手したインターネットの写真と比べて滝の水量が少ないこと、特に千葉県の滝や日本のナイアガラの滝と言われている群馬県の「吹割の滝」の水量の少なさには驚きました（監視員に確認したところ10年位前から今の状態が続いているとのこと）。更に、台風などにより滝までの道の決壊・通行止めや、今年は特に「熊注意」などの看板が目につき辿り着けない滝も数か所ありました。日本の自然環境が悪い方向に向かっているように感じています。

また、「何故滝巡りをしているのか」と問われれば、術後の脚力を試してみたい気持ちが強いので敢えて山道を歩いて脚力を確認していると答えます。ただ、滝巡りは転倒防止のため杖を使用しての歩きで、吊り橋・溪流に沿った道などかなりきつい・危険な箇所がありました。歩きましたがおしました。

「滝巡り」は区切りがついたので「滝巡り」を目的としたドライブについて今年には終わりにします。

11月の目標は、前から一度は行ってみたいと思っていた五能線（五所川原～東能代）沿いにある青森県黄金崎不老ふ死温泉に行くことです。この温泉の露天風呂から日本海に沈む素晴らしい夕日を見たいがために、3泊4日の温泉と紅葉を目的としたドライブ旅行

を計画しました。「不老ふ死温泉」、素敵な温泉名です。あやかりたいと思っていました。

出発日（10日）の数日前から「寒波」が東北地方を襲いました。「これはヤバイ」と思い滑り止めを準備し装着・脱着の予行を行いました。

**初日の宿泊地は岩盤浴で有名な秋田県「玉川温泉」。**

東北道～秋田道から田沢湖まではほとんど雪もなく到着しましたが、田沢湖から鹿角市に向かう山岳地帯の国道は途中から雪一面の世界。ただ、国道だけは除雪されており走行には支障ありませんでした。しかし、温泉入口では「滑り止め無しの車両は通行止め」の看板があり、小雪の中、滑り止めを装着しようとしたのですが手元が暗く（17:00過ぎ）、うまくいきません。その時、一台のライトバンが谷の方から上がって来て「お客さんですか」と声を掛けてくれました。私が最後のお客だったようです。私の車はより安全な新玉川温泉の駐車場へ誘導され、ライトバンに乗り換え無事に温泉に到着しました。朝6時に横浜を出発してから約11時間、700kmの旅でした。

玉川温泉はご承知の方もいらっしゃると思いますが、「**強酸性**」の温泉でめちゃ辛く体に傷口があると沁みてくるのですぐに分かります。機会があれば又来たいです。

その夜、たまたま歌謡番組を見ていると「水森かおり」が新曲「五能線」を唄っており、明日から見る予定の十二湖、日本海の夕日など美しい画像が流れ、偶然とはいえ期待を膨らませながら眠りにつきました。

**2日目の宿泊地は青森県不老ふ死温泉。**

朝起きると辺りは**一面雪景色**（\*写真⑱・⑳）。駐車場まで送迎バスで送ってもらい車を乗り換え、除雪された形跡はあるものの雪が残る国道を慎重な運転で田沢湖畔まで下りました。雪は山岳地帯に限られて平地では全く心配ありませんでした。2日目の予定は「抱返り溪谷」及び「十二湖」の紅葉と「日本海の夕日」です。



⑱ 玉川温泉から見た雪景色



⑳ 駐車場の状況

V字溪谷で東北の耶馬溪といわれる**抱返り溪谷**の見事な紅葉（\*写真㉑）・奇岩を見ながら吊り橋（\*写真㉒）と岩をくりぬいたトンネルが続く遊歩道を歩き、溪谷最大の見所である「回顧の滝」（\*写真㉓）に辿り着くまで40分かかりました。汗びっしょりです。しかし、滝の水飛沫を浴びるとこれまでの疲れがすっ飛んでしまいました。



㉑ 抱返り溪谷全面 ㉒ 抱返り溪谷に架かる最初の吊り橋 ㉓ 回顧の滝 (秋田県)

次の温泉地へは夕日までに到着しなければなりませんので、十二湖は3日目に延ばし観光客で賑わう「角館の武家屋敷通り」も車内から見るだけにして一路秋田市を經由して五能線と並行して走る国道101号線を走りました。日本海には夕日が迫っていました。



㉔ 日本海の夕日

(\*写真㉔)

不老ふ死温泉に着くやチェックインの前に「お客様、あと10分しかありませんので」と言って浴場に案内され、係の機転により何とか温泉に入りながら夕日で赤く染まる日本海を眺めることができました。温泉は、玉川温泉より「やや弱めの酸性」で身体も温まり、寿命が延びた気がしました。

3日目の宿泊先は岩手県「花巻温泉」。

白神山系にある「十二湖」の紅葉は時期的にはやや遅くピークを過ぎていました。神秘的な「青池」には、途中いくつかの池を交通止めになるまで車内から見ながらゆっくり走りました。駐車場のある売店(11月30日まで営業)から徒歩で20分、小さな展望台のある「青池」(\*写真㉕)に到着。池は青色というより透き通るような青紫色に見え、落葉がかなり溜まっていたりしてイメージとはだいぶ違っていたのでちょっと残念でした。



㉕ 青池

再び五能線に沿って日本海を見ながら国道101号線を鱒ヶ沢町に向け走り、途中、千畳敷海岸(弘前城の殿様が千畳の畳を敷いて酒宴をしたと言われる)から十和田湖周辺の積雪の状況を十和田湖観光協会に問い合わせ確認したところ「大丈夫です」ということなので行き先を十和田湖に定めて走りました。

車は、左右に真っ赤に実をつけたリンゴ畑、右後方に大きく聳え立つ岩木山、左前方奥に真白な八甲田山系を見ながら弘前に向かう国道（一度は走りたいと思っていた国道です）を走りました。この間、八戸で勤務して時の八甲田山冬季演習や十和田湖畔一周（50 km）を完歩したことなど懐かしく思い出していました。十和田湖へは大鰐弘前ICから東北道入り、小坂ICで下りました。十和田湖まではまだ30 km近くあり、途中休憩のため立ち寄った道の駅で思わぬ拾い物（？）をしました。



駐車場の前に、なんと日本の滝百選の一つ「七滝」（\*写真⑳）の豪爆を見ることができ驚きでした（予想もしていませんでした）。

「十和田湖」に到着しましたが、十和田湖畔の紅葉はすでに終わっていましたので、残念ではありましたが紅葉の綺麗な奥入瀬溪流経由で花巻温泉に向かう予定を変更し、鹿角市経由で東北道に入り予定時間内に花巻温泉に到着しました。温泉は、「単純温泉」で神経痛・関節痛・疲労回復などに効能があります。

#### ⑳ 七滝（秋田県）

4日目、横浜へ帰るだけですが、これも予定した行動ですが津波で被害を受けた三陸海岸の大震災の復興状況を確認しながら走ることにしました。花巻を離れる前にフロントから温泉街の近くにある滝、「釜淵の滝」を見た方がよいと勧められまさに駐車場を出ようとした時、ETCカードを紛失していることに気が付きました。ホテルのフロントに戻り事情を話したところ、「カードは清掃係が届け、預かっています」と言って渡してくれました。本当に助かりました。



釜淵の滝（\*写真㉑）は、温泉街の紅葉が素晴らしい周遊道の途中にありましたが、周遊道には50 m間隔で熊除けの大きな鐘がセットされていて鐘を鳴らし続けながら辿り着きました。滝は袋田の滝を一段にしたような幅の広い滝で水量が多いので迫力がありました。

#### ㉑ 釜淵の滝（岩手県）

花巻ICから紅葉がきれいな釜石自動車道を走り釜石市に向かいましたが、遠野市から先は無料の自動車道として整備され、釜石市から海岸線を走る三陸自動車道も同様に高速自動車道並みに走行することができました。釜石市～大船渡市～陸前高田市～気仙沼市など車内から見る限り海岸線には高い防波堤と高台には真新しい建物などを見ることができました。気仙沼市～一関ICから東北道に入り、横浜には21時に着きました。

コロナ禍ではありましたが、東北の温泉と紅葉を巡る3泊4日の約2000 kmにわたるドライブによるひとり旅でした。玉川温泉・不老ふ死温泉・花巻温泉はどれも良かったし、ホテルの感染対策はここまでやるのかと言うくらい徹底していたし、紅葉も日本海側と太平洋側では大分違うことを体感したし、素晴らしい滝にも出会えたし、従業員の機転等で助けられたりして旅の目的は100%以上達成できました。